

吉報 KIPPO

1

吉野町の「今」を発信





古くから受け継がれてきた伝統や文化と、
現代の感性が融合するまち、吉野町。

ここでは、地域の住民や、事業を営む人、
移住してきた人が力を合わせて、
まちの発展のために活動しています。

このパンフレットでは、

今、吉野町で生まれている

「新たな動き」をつくるキーパーソンの取り組みと、
それに関連するふるさと納税の返礼品をご紹介します。

心を動かす、

吉野町の多彩な魅力を感じてください。

吉野正宗プロジェクト

北岡本店・北村酒造・美吉野醸造

さと新築
ちよ返礼品

清酒「吉野正宗」3銘柄呑み比べセット



吉野町では、豊かな水を生かした米作りが行われる中、吉野の歴史と自然を背景にした酒造りが続けられています。今回、米の生産者と町内にある百年以上の歴史を持つ三つの老舗酒蔵が手を組み、町の協力のもとに、清酒ブランド「吉野正宗」を立ち上げました。吉野町の遊休農地を利用し、そこで育てた酒米を使って、三つの酒蔵がそれぞれの味に仕上げられています。

Q1 吉野町で行っている挑戦は何ですか？

耕作放棄地の活用に取り組み米生産者と、吉野を代表する三つの酒蔵「北岡本店」、「北村酒造」、「美吉野醸造」が手を組み、まちの協力のもとに、「吉野正宗」という清酒ブランドを立ち上げました。「吉野正宗」は、町内でつくられた酒米「吟のさと」を使用し、精米歩合60%でつくられた日本酒です。三つの老舗酒蔵が同じお米を使い、同じ銘柄のお酒をつくりました。各蔵の米の解積の仕方や醸造方針の違いにより、それぞれの蔵の特徴がしっかりと出た味わいになっている三種のお酒を楽しんでいただけます。

Q2 吉野町の魅力は何ですか？

吉野には、深い山々、自然豊かな土地ときれいな水があります。また、吉野は春の桜が有名ですが、冬の日本酒の仕込み、夏の前の田植え、秋の紅葉などもとても美しいです。吉野には素晴らしい観光資源があり、気候風土も豊かです。そのような場所のでつくれる地酒を通じて、吉野というまちをもっと多くの方に知っていただきたいです。

Q3 今後、吉野町をどのようなまちにしたいですか？

私たちは、今まで培ってきた醸造技術で地域発展に貢献し、自給農業地域として継続ができる形を模索したいと考えています。このプロジェクトをきっかけに、遊休農地の解消を促進したいです。また、酒蔵ツアーや酒造り体験など町内外でのイベントを通して、より多くの方々に「吉野正宗」を届けることにより、農業や酒造りに関心を持つ方に吉野町への移住を考えていただくきっかけを増やしていくなど、まちを盛り上げることに努めていきたいですね。

美吉野醸造株式会社 みよしのじょうぞう

1912年創業。時代の流れとともに、お酒の味わいの基準を風土の解釈から紐解いていこうと考えるようになる。吉野の風土に寄り添う酒造りで、酸と旨みの両方のバランスが取れたお酒を目指している。2017年からは、すべてのお酒を酵母無添加の自然醸造に切り替える。その翌年には、奈良県内の契約栽培米での酒造りにシフト。現在は、各地域や販売先とともに歩む酒造りに精力的に取り組む。

<https://www.hanatomoe.com>

北村酒造株式会社 きたむらしゅぞう

吉野山のふもと、吉野川の川沿いの吉野市で約230年前(1788年)に創業。この地の大山林家・木屋左衛門の12番目の末子・初代宗四郎が、大和国の百済村より、酒造株と酒槽を買ってもらい、この地に分家を許されたのがはじまり。山間の傾斜に合わせて、階状(きざはしじょう)になった土蔵造りが特徴。

<https://www.kitamurasuzou.co.jp>

株式会社北岡本店 きたおかほんてん

約400年前、吉野が山林労働に従事する人たちの宿場町であり、大和から伊勢、熊野に抜ける交通の要として栄えていた頃に創業。古金屋を経て、明治元年(1868年)に酒造り専門に切り替える。「日本古来の酒造り技術を伝承し、おいしい酒を通じて心温まる人間関係の成立に寄与する」がモットー。

<https://www.kitaoka-honten.com>



葛スイーツプロジェクト

中井春風堂



吉野で愛され育まれてきた葛は、つる性の多年草である葛の根を碎き、絞り出したでんぷんを水に晒して乾燥させたものです。その歴史は古く、吉野地方の寒冷な気候と清らかな水が作り出す吉野の葛は上質とされています。今回、吉野葛を使った新しい「葛スイーツ」プロジェクトが始まりました。吉野山の12店舗で、葛を使った多種多様なスイーツメニューを体験できます。

Q1 吉野町で行っている挑戦は何ですか？

吉野山の人たちと、吉野葛を使ったスイーツの開発を行いました。葛を使ったゼリーや餅、ピュレなど、色々な食感、味を楽しめます。豆乳をベースとした葛餅入りのドリンク、うなぎの蒲焼を模した団子、そば粉と葛あんを使った葛あんサンドなど、葛を楽しめる新しいメニューが各店舗で販売されました。私たちは、葛の製法やおいしさを守りながら、今の時代に合った取り組みを生み続けていきたいと思っています。

Q2 吉野町の魅力は何ですか？

水、風、気温、湿度の環境など、吉野山には、上質な葛粉をつくるために必要な土壌が揃っています。上質な葛粉をつくるためには、葛から取ったでんぷん質を何度も水に浸して、あく抜きをします。その過程での水は、冬場の冷たい水が適しています。また、あく抜きしたでんぷん質を乾燥させて葛粉にする作業も、吉野山からの乾燥した風があるからこそできることなのです。私たちの仕事は、自然の資源、風土、環境、そして先代の人々が紡いできた丁寧な手仕事の上に成り立っています。

Q3 今後、吉野町をどのようなまちにしたいですか？

葛を始めとして、吉野山のファンをつかっていきたいですね。桜の季節だけではなく、一年を通して、吉野山に来ていただけるように、新しい商品を開発したり、新しい挑戦が生まれる環境を積極的につくっていききたいです。これからも、吉野山を訪れる方々が、地域と関わりを持てるような場や取り組みをつくりながら、皆さんと一緒に、吉野山を盛り上げ、守っていききたいです。

なかいしゅんぷうどう

高校を卒業後、辻調理師専門学校にて料理を学ぶ。奈良県内の温泉宿で板前として勤務した後、菓子屋にて和菓子の調理業務に従事。その後、吉野山に帰郷し家業に就く。2014年に、葛屋中井春風堂として葛の専門店を始める。



コーヒークーズもち



季節の果実と葛のパルフェ



季節の葛まんじゅう



さくらずぷりん



吉野温葛



吉野葛で作った琥珀糖



レアチーズ葛餅
季節のフルーツ添え



うなぎ餅

吉野山の12店舗がそれぞれ独自の葛スイーツメニューを開発しました。

https://yoshino-kankou.jp/yoshinokuzu_sweets



橋元美穂

木工作家／木育インストラクター



Q1 吉野町で行っている挑戦は何ですか？

吉野の地域材（杉・檜）を使い、子どもの発達を考えた木製玩具を製作しています。また、0～15歳に向けた「木育」にも取り組んでいます。赤ちゃんと吉野材で作られた玩具を贈る取り組みから始まり、こども園・小・中学校の教育現場での「木育」活動や授業の支援を行っています。

Q2 吉野町の魅力は何ですか？

美しい山々に囲まれ、木材産業に関わる人が多く、吉野林業・製材業としての歴史があることですね。地域の人々がとても温かく接してくれることも大きな魅力です。

Q3 今後、吉野町をどのようなまちにしたいですか？

木のまちとして、吉野町をもっと活性化していきたい、町内に暮らしている人々がそのことを誇りに思えるようなまちにしていきたいです。また、吉野で育つ子どもたちが木と触れ合い、木に学び、木と生きることを目指し、吉野町への愛着心を持つてもらいたいと思っています。

はしもと みほ
「日本の木で、日本の子どもに遊びと学びを」という想いで、木製玩具ブランド「esora（エソラ）」を立ち上げる。より多くの子どもが、木に触れ感性やものづくりの技術を磨き、力強く生きる力を育む教育として、「木育」の普及を目指す。「木育授業」や「木育インストラクター養成講座」の講師も請け負う。
<http://miho88.web.fc2.com>



湯浅則夫

家具職人



Q1 吉野町で行っている挑戦は何ですか？

奈良県内の木材業や自治体とともに、次世代に残したい木工と家具の可能性を探っています。近年、広葉樹を使ったオーダーメイド家具に加え、吉野の杉や檜で家具を製作しています。質の良い吉野材を使える環境を生かし、ふるさと納税返礼品に出させていただいています。

Q2 吉野町の魅力は何ですか？

自分に合った「木」との関わりを見つけられること、また「木」とともに生きていくことができます。木材の生産地である山から近く、そこから地続きで、製材所、木材流通の拠点や林業の教育施設があり、木を軸とした雇用も生まれています。

Q3 今後、吉野町をどのようなまちにしたいですか？

副業や趣味で、木材や林業に関われる機会を提供できるまちになると良いですね。二拠点生活、副業のための施設、テーパークなど、長期的な事業の構想が大切だと思います。



ゆあさのりお
家具職人・永田健一と出会い、師事したのち独立。木製オーダーメイド家具「SIGN」を開業。その後、奈良県の職業訓練校での木工指導員を経て、2020年、吉野町で「PROP」を起業。
<https://prop-furniture.com>





株式会社ニフ代表

西村 恵



コヒノキバスソルト

さと納税
返礼品

にしむら めぐみ

自身の病気をきっかけに酵素風呂と出会う。心身の変化を体験して以来、東京、大阪、京都などの砂風呂、酵素風呂サロンにて勤務。

2017年より、発酵温浴 nifu のマネージャーとしてスタッフの育成、店内アメニティ、オリジナルプロダクトの開発に携わる。2022年、吉野町内に、株式会社ニフを設立。

<https://nifu.jp>



Q1

吉野町で行っている挑戦は何ですか？

電気・ガスを使わず、吉野檜のおがくずの自然発酵熱のみを利用した温浴サビース『発酵温浴 nifu』を運営しています。現在は、吉野町に製材所を構え、地元の林業家と連携しながら、地域の課題である施業放棄林の枝打ち、間伐、林地残材の活用に取り組んでいます。

Q3

今後、吉野町をどのようなまちにしたいですか？

自分のお店で吉野を宣伝していきたいですね。吉野の魅力を伝えることで、まちと人が繋がるきっかけをつくりたいです。華々しさはないけれど、奥ゆかしさがある吉野町が、都市に暮らす人々にとって、静養と生活のリセットができる場所になれば良いと思っています。

Q2

吉野町の魅力は何ですか？

深い歴史と自然に囲まれた環境で、都会とは異なる時間の流れを感じるができます。何世代にも渡って受け継がれてきた伝統的な行事や仕事を今でも多く見ることができます。

Q2

吉野町の魅力は何ですか？

山や川など、人間以外の動植物の存在を身近に感じられ、現代社会が忘れがちな価値観を再認識できます。また、何世代にも渡って、木を育て、山を守る林業が盛んです。そのためか、ものごとを捉える時間軸が長い人が多いように感じますね。

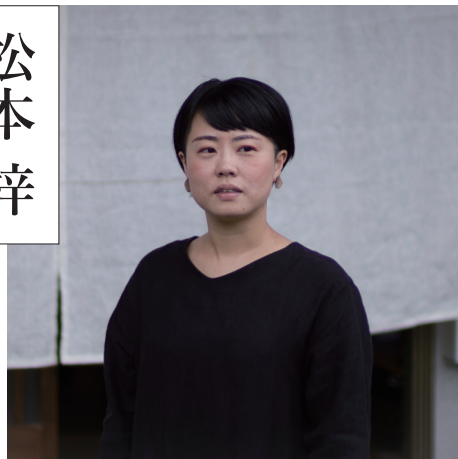
Q1

吉野町で行っている挑戦は何ですか？

奈良の地域資源を使った自然素材の「お風呂のハーブ」、無添加石鹸、アロマスプレーなどの商品の企画販売を中心に、吉野町を拠点にした体験イベント事業を行っています。都市と地方でモノや人を循環させたいと活動しています。

チアフル株式会社代表

松本 梓



Q3

今後、吉野町をどのようなまちにしたいですか？

古くから受け継いできた文化を守りつつ、新しい暮らしに合わせて進化させたり、都市部や海外からの情報や往来を受け入れながら、暮らしや生き方を柔軟に変化させ楽しむ人々の輪が、私の周りにじんわり広がっていけばいいと考えています。



さと納税
返礼品

まつもと あずさ

大手メーカー勤務時代、全国各地を訪れるなかで、日本のローカルエリアの魅力に気づく。自分らしい働き方を考えたタイミングと重なり起業。日本古来の薬草を原材料にした自然素材100%の入浴料「お風呂のハーブ」をつくるため、オリジナルブランド『jiwaiwa (じわじわ)』を出身地の奈良で設立。

<https://www.jiwaiwa.jp>



富松 暖

デザイナー



Q1 吉野町で行っている挑戦は何ですか？

吉野町で、新たな知育教室「吉野全藝」を開校しました。五感を刺激し、感性を耕し、大人も子どもも楽しく学ぶ事のできる場づくりを目指しています。現在は、音を基軸としたリトミックを京都の知育教室「musicand」と協働し、運営しています。

Q2 吉野町の魅力は何ですか？

地理と空気が吉野町の魅力だと思います。大阪や京都から車で一時間以上離れ、吉野駅は終着駅でもあります。この物理的な距離が、都会には無いゆったりとした時間軸を生み出しています。それに関連して、空気もとてもきれいですね。

Q3 今後、吉野町をどのようなまちにしたいですか？

現在の吉野町は、子どもと教育機会の少なさ以外は、良い環境が整っていると思います。現状の生活インフラや自然環境を維持しながら、大人と子ども両方にとって学びの多いまちにしたいですね。

とみまつ だん
DAN TOMIMATSU デザイナー、奈良芸術短期大学特任講師、クリエイティブスタジオ kana 代表取締役、スマート家電会社 ASA CDO。吉野町で知育教室「吉野全藝」を運営。
<http://www.yoshinomokegi.com>



株式会社丸産業代表

丸 敏幸



Q1 吉野町で行っている挑戦は何ですか？

近年、産業全体が衰退傾向にある中、地元を盛り上げるために、サテライトオフィス&コワーキングスペース「YOSHINO GATEWAY」を2022年から運営しています。吉野の山々を一望できるロケーションの中で、仕事や地域との交流ができる空間を提供しています。

Q2 吉野町の魅力は何ですか？

吉野町は、吉野材の職人が集まる製材のまちです。吉野杉や檜は、150〜200年の年月をかけて育てられます。先代に感謝をしながら吉野材を製材し、産業を支えている人々が吉野町の魅力です。

Q3

今後、吉野町をどのようなまちにしたいですか？
吉野町には、訪問者を受け入れ、困った人を助け、挑戦している人を応援する人々がたくさんいます。そのような人々とともに、「木」を中心とする吉野の暮らしをこれからも残していきたいです。



まるとしゆき
1963年に設立以来、近畿圏を中心に住宅資材・建材の総合商社事業を展開。安心・安全・健康で快適な暮らしと、確かな品質を保証する住まいづくりをサポートしている。また、地域社会貢献活動として、地域における文化やスポーツの振興にも取り組んでいる。
<https://yoshinogateway.com>



さと野松
返礼品

建築士

澤木久美子



Q2

吉野町の魅力は何ですか？

日常的に感じられるのどかで美しい風景、人のオープンマインドさと距離感の良さが魅力ですね。近所付き合いも温かいと感じます。私が吉野町に来てから、たった三年で宿の女将になれたことも、吉野町の皆さんとの縁と繋がりのおかげです。

Q1

吉野町で行っている挑戦は何ですか？

空き家を活用して、様々な人が集い出せる場所「国栖Core」を運営しています。その一つが「ゲストハウス空」です。観光目的の短期滞在はもちろんのこと、吉野町に興味を持ったり魅力を感じた方向けに、気軽に長期滞在できるプランもご用意しています。

ゲストハウス空 宿泊券



さとゆき 返礼品

さわきくみこ

設計事務所を営んで20年が過ぎた頃、友人の誘いを契機に吉野町に通い始める。空き家問題に関わるうちに元旅館を借りることになり、2021年に吉野町に移住。「ゲストハウス空」やシェアキッチンが入る「国栖Core」をオープンさせ、町内に限らず広くお薦めスポットを案内できる拠点にするべく模索中。
<https://kuzu-core.com>



Q3

今後、吉野町をどのようなまちにしたいですか？

移住された方、拠点を持って時々通って来られる方々と地域の人々が気軽に繋がることができるまち、誰でも新しいことに挑戦できるまち、それをみんなで応援できるまちにしたいです。

中島知帆

子ども食堂主宰



Q3

今後、吉野町をどのようなまちにしたいですか？

元気な吉野町！であってほしいです。「元気なまち」とは、国籍問わず老若男女が互いに学び、笑い、触れ合える場所であることだと思います。また、古くから受け継がれる吉野町の文化を残しつつ、若い子どもたちの活動の場がある、活気のある生き生きとしたまちであってほしいと思います。

Q2

吉野町の魅力は何ですか？

人の温かさと、豊かな自然の景色が魅力だと思います。地域の方々と繋がり、楽しみながら、それぞれの活動を頑張っている方がたくさんいます。

Q1

吉野町で行っている挑戦は何ですか？

移動式の子ども食堂「よしのっ子食堂」の運営を行っています。生活する上で欠かせない手作りで温かい「食」から、自然と笑顔や会話が生まれるものです。子どもだけではなく、周りの大人の方々も集まれる居場所の一つになることができたらと思っています。

なかじま ちほ
小学生の時から奈良市で育つ。結婚を機に吉野町へ移住。介護福祉士として勤務し、勤務日以外に、吉野町に関わる仕事や月1〜2回「よしのっ子食堂」の活動を行う。
<https://kodomonara.com>



吉野町と関わる人

吉野の森を舞台にした映画『Vision』の監督、河瀬直美さんと、世界初のコミュニティハウス「吉野杉の家」を設計した建築家の長谷川豪さんに吉野町の魅力を聞きました。

河瀬直美

映画監督



Q1 吉野町の魅力を教えてください。

吉野は奈良の聖地であると同時に、日本の聖地。そして、世界の聖地となり得る場所です。時の流れの中に連綿と続く歴史や文化、ストーリーがある吉野は、私の憧れの地であり、心の拠り所です。

Q2 吉野町の好きな場所と、その理由を教えてください。

吉野の森は、私にとってほっと一息つける場所です。金峯山寺にも、いつも何かを「受け入れる」空気が流れています。山の中にいるような自然に抱かれた安らかな気持ちになります。

Q3 今後、吉野町がどのようなまちななっていくと良いと思いますか。

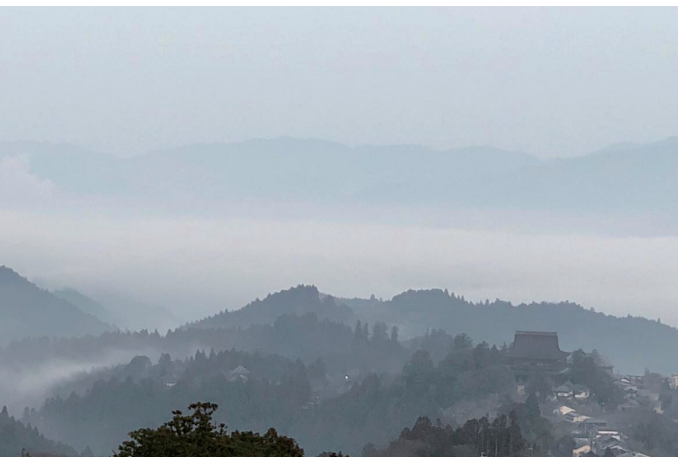
桜だけでなく、一年を通して、魅力をもっているまちだと思います。近年は、現代アートの展示やイベントにも注目です。古い歴史を紐解き大切にしながら、若い世代にも開かれた様々な人々が集うまちになると良いですね。

かわせ なおみ

映画監督。生まれ育った奈良を拠点に映画を創り続ける。ドキュメンタリー、フィクションの域を越えて一貫したリアリティを追求する。各国の映画祭での受賞歴多数。代表作は『萌の朱雀』『殞の森』『270日の窓』『あん』『Vision』『朝が来る』など。東京2020オリンピック公式映画総監督。ユネスコ親善大使。2025年大阪・関西万博プロデューサーを務める。

長谷川豪

建築家



Q1 吉野町の魅力を教えてください。

山と川がある。木と水がある。何世代にも渡って引き継いできた林業がある。大きな自然が、長い歴史が、あの小さなまちにギュッと凝縮されていることが実感できる。そこが吉野の魅力です。

Q2 吉野町の好きな場所と、その理由を教えてください。

様々な樹種の巨大な柱が並ぶ金峰山寺の本堂内部の空間は、歴史的建造物でありながら独特の包容力があって、現代的さを感じる。年に一度は身を置きたい場所です。

Q3 今後、吉野町がどのようなまちななっていくと良いと思いますか。

地球環境への意識の高まりを受けて、かつてないほど木が世界的に注目される時代になり、木のまち・吉野はますます注目されていきます。世界中から、木を「学び」に訪れる場所になっていくと思います。

はせがわ たけお

建築家。長谷川豪建築設計事務所代表。東京工業大学大学院博士課程修了（工学博士）。メンドリジオ建築アカデミー客員教授。UCLAカルフオルニア大学ロサンゼルス校客員教授、ハーバード大学デザイン大学院客員教授を歴任。第24回新建築賞ほか受賞歴多数。作品集に『In+U 556 Go Hasegawa』『Ei Croquis 191: Go Hasegawa 2005-2017』など。





吉野町 協働のまち推進課

〒639-3192 奈良県吉野郡吉野町大字上市 80 番地の 1

TEL : 0746-32-3081

2024 年 2 月発行